

# 岡山県感染症週報 2025 年第 47 週 (11 月 17 日～11 月 23 日)

## 12 月 1 日は『世界エイズデー』です

岡山県では『世界エイズデー』の関連行事として、エイズに関する正しい知識の啓発活動および保健所・支所で夜間・休日などの HIV 検査を実施します。詳しくは「[今週の注目感染症①](#)」をご覧ください。



レッドリボン  
エイズに対する理解と  
支援の象徴

岡山県は『インフルエンザ警報』を発令しました(11 月 28 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令中です

### ◆2025 年 第 47 週 (11 / 17～11 / 23) の感染症発生動向 (届出数)

#### ■全数把握感染症の発生状況 (第 47 週届出分)

第 46 週	2 類感染症	結核	1 名 (80 代 男)
	5 類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 名 (80 代 男)
		梅毒	2 名 (20 代 男 1、50 代 女 1)
		百日咳	2 名 (小学生 女 1、中学生 女 1)
第 47 週	2 類感染症	結核	5 名 (40 代 女 1、80 代 男 3、90 代 女 1)
	5 類感染症	アメーバ赤痢	1 名 (50 代 男)
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1 名 (70 代 女)
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 名 (60 代 女)
		梅毒	2 名 (20 代 男 2)
		百日咳	13 名 (乳児 男 1、小学生 男 1・女 3、中学生 女 1、高校生 女 1、20 代 男 1・女 3、30 代 女 1、50 代 女 1)

効果的な場面でのマスク着用！



© 岡山県「ももっち」

#### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：ARI 定点 50、小児科定点 28、眼科定点 12、STD 定点 18、基幹定点 5

- インフルエンザは、県全体で 2,061 名 (定点あたり 41.22 人) の報告がありました。
- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で 110 名 (定点あたり 2.20 人) の報告がありました。
- 急性呼吸器感染症 (ARI) は、県全体で 5,069 名 (定点あたり 101.38 人) の報告がありました。
- 伝染性紅斑の報告数が多くなっています。

1. [インフルエンザ](#)は、県全体で 2,061 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 21.00 → 41.22 人)。岡山県は 10 月 30 日に「[インフルエンザ注意報](#)」を発令し、注意喚起を図ってきたところですが、県全体の定点あたり報告数が警報発令基準の 30.00 人を上回り、流行時期等から今後も患者が増加する可能性があるため、11 月 28 日に「[インフルエンザ警報](#)」を発令し、さらなる注意喚起を図ることとしました。詳しくは、「インフルエンザ週報」および岡山県感染症情報センターホームページ「[2025/26 年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ警報」を発令しました！](#)」をご覧ください。
2. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で 110 名の報告があり、前週から減少しました (定点あたり 2.56 → 2.20 人)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報](#)」をご覧ください。
3. [急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#) は、県全体で 5,069 名の報告があり、前週から増加しました (定点あたり 87.94 → 101.38 人)。詳しくは、「[☆急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ「[急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報](#)」をご覧ください。
4. [梅毒](#)は、2025 年第 47 週に 2 名の報告があり、2025 年の累計報告数は 231 名となりました (2024 年の同時期：323 名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[梅毒について](#)」をご覧ください。
5. [百日咳](#)は、2025 年第 47 週に 13 名の報告があり、2025 年の累計報告数は全数把握による統計を開始した 2018 年以降最多の 2,094 名となりました。予防法は、予防接種のほか、感染者との接触を避ける、流行時のうがいや手

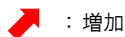
洗い、手指の消毒などです。感染時は『咳エチケット』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。また、風邪と見分けがつかないまま、感染を広げる可能性があるため、咳が続く場合は早めに医療機関を受診しましょう。

6. [伝染性紅斑](#)は、県全体で32名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり1.00 → 1.14人）。詳しくは「[今週の注目感染症②](#)」をご覧ください。

#### 流行の推移

疾病名	定点あたり報告数		推移	疾病名	定点あたり報告数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	21.00	41.22	↗	突発性発しん	0.25	0.39	↗
COVID-19	2.56	2.20	↘	ヘルパンギーナ	0.11	0.07	↘
急性呼吸器感染症(ARI)	87.94	101.38	↗	流行性耳下腺炎	0.07	0.04	↘
RSウイルス感染症	0.86	0.54	↘	急性出血性結膜炎	0.00	0.00	→
咽頭結膜熱	0.14	0.18	↗	流行性角結膜炎	0.17	0.33	↗
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.36	1.54	↗	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
感染性胃腸炎	2.75	2.61	→	無菌性髄膜炎	0.20	0.00	↘
水痘	0.21	0.29	↗	マイコプラズマ肺炎	1.20	1.40	↗
手足口病	0.04	0.11	↗	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
伝染性紅斑	1.00	1.14	↗	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	→

【記号の説明】 前週からの推移



：増加



：ほぼ増減なし



：減少

増加・減少：前週比10%以上の増減

### 新型コロナワクチンの定期接種(高齢者対象)について

令和6年度と同様に、令和7年度も **10月**から**新型コロナワクチン定期接種**が実施されています。

新型コロナワクチンの接種は、個人の重症化予防により重症者を減らすことを目的とし、定期接種として実施しています。

#### 接種対象者

- ・ 65歳以上の方
- ・ 60～64歳で、心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫の機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方

#### 接種時期

令和7年10月1日～令和8年3月31日の間で市町村が設定する期間

#### 接種費用

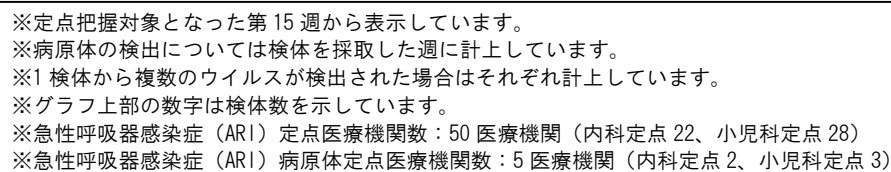
原則有料

※定期接種の自己負担額は市町村によって異なります。詳細は市町村の予防接種担当課にお問い合わせください。



©岡山県「ももっち・うらっち」

1. 岡山県の流行状況（第47週（11 / 17 ～ 11 / 23））



2025 年第 47 週に環境保健センターに搬入された検体はありませんでした。

→ SARS-CoV-2 変異株について（国立健康危機管理研究機構）

## 今週の注目感染症①

# ☆後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）

### ●後天性免疫不全症候群(エイズ AIDS)とは

エイズは、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによって起こる病気ですが、HIV 感染＝エイズではありません。HIV 感染後、自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると免疫が低下し、本来なら発症しない病気（日和見感染症）などを発症するようになります。発症までの期間は通常数年程度を要するとされていますが、近年は短い症例もみられています。免疫が低下することで発症する疾患のうち、代表的な 23 の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点で、エイズ発症と診断されます。現在はさまざまな治療薬があり、きちんと服薬することでエイズ発症を防止することが可能になっています。

なお、エイズ発生動向年報では、感染症法の後天性免疫不全症候群の届出において AIDS として報告があったもの（エイズを発症したもの）を「患者」、無症候性キャリア（無症候期のもの）またはその他（指標疾患以外の何らかの症状を認めるもの）として報告があったものを「HIV 感染者」として集計しています。

### ●感染経路、予防方法および感染の確認方法

HIV の主な感染経路は、①性行為による感染、②血液を介しての感染（覚せい剤などの依存性薬物の回し打ちによる注射器具の共用）、③母親から赤ちゃんへの母子感染、の 3 つです。

①は、不特定多数との性行為を避ける、性行為においてコンドームを使用することで予防可能です。

③は、母親が HIV 感染症の治療薬を飲むこと、帝王切開での出産、母乳を与えないことなどで赤ちゃんへの感染を 1 %以下に抑えることができます。（[エイズ Q&A（エイズ予防情報ネット）](#)）

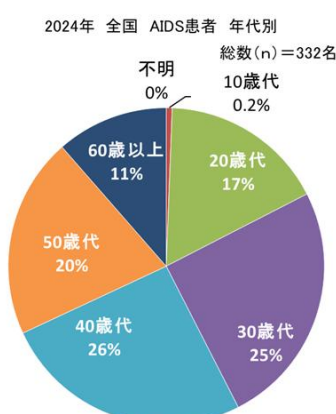
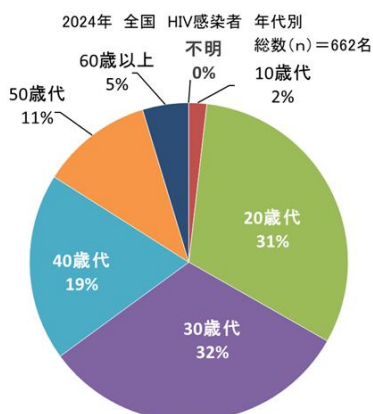
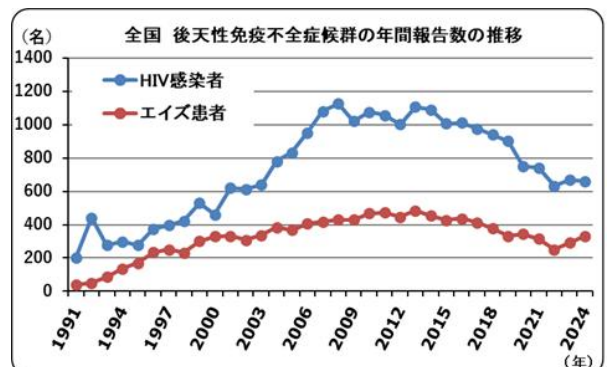
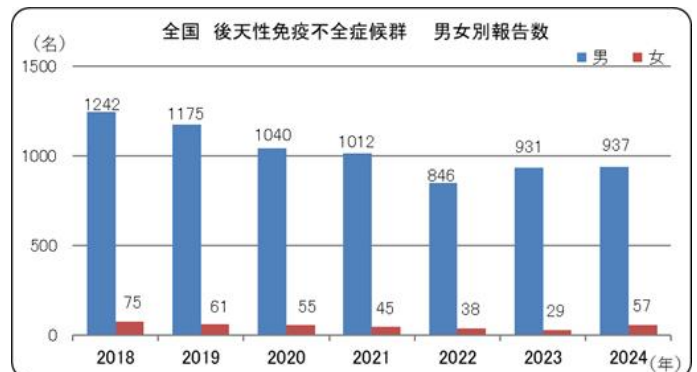
HIV に感染すると、通常 6～8 週間経過して、血液から HIV 抗体が検出されます。感染初期にはインフルエンザに似た症状が出ることもありますが、この症状からは HIV に感染しているかどうかを確認することはできません。HIV 検査を受けることで、初めて感染の有無を確認することができます。

### ●発生状況

#### ・全国

エイズ発生動向年報によると、2024 年の新規報告数における HIV 感染者は 662 名（前年 669 名）であり、前年からほぼ横ばいでしたが、保健所等での検査件数の伸びが鈍化している（2024 年 108,988 件、前年 106,137 件）ことが影響している可能性があります。今後の状況を注視していく必要があります。

また、エイズ患者は 332 名（前年 291 名）であり、2 年連続の増加となり、HIV 感染者を含めた報告数全体に占めるエイズ患者の割合は 33.4%と過去 20 年間で最も高くなっています。これは、新型コロナウイルス感染症の流行等により保健所等での HIV 検査件数が減少していたことにより、エイズを発症するまで診断を受けていなかった患者が増えたためである可能性があります。また、外国国籍のエイズ患者報告数も増加（2024 年



69 名、前年 39 名）しており、今後の状況を注視していく必要があります。

年代別では、HIV 感染者は 20～30 代で多くなっています。またエイズ患者は、20 代以上の各年代に分散していますが、特に 30～50 代で多く、HIV 感染者よりも年代が高くなっています。



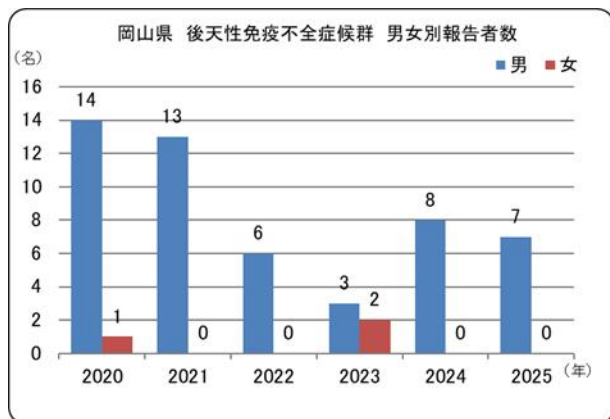
国籍・性別別では HIV 感染者の 78.5%、エイズ患者の 76.2%が日本国籍男性ですが、エイズ患者における外国国籍男性の割合の増加も見られます。

HIV 感染者およびエイズ患者の感染経路は、性的接触によるものが約 75%で、HIV 感染者の 63.0%、エイズ患者の 51.2%が同性間性的接触と報告され、男性の同性間性的接触の多い傾向が継続しています。なお、静注薬物使用が 1 件、母子感染によるものは 0 件でした。

都道府県別でみると、2024 年 HIV 感染者（人口 10 万人あたり）は、東京都（1.60 人）、大阪府（0.72 人）、福岡県（0.71 人）の順で多くなっています（岡山県は 0.22 人）。また、エイズ患者（人口 10 万人あたり）は、高知県（0.61 人）、沖縄県（0.48 人）、東京都（0.44 人）の順で多くなっています（岡山県は 0.22 人）。

## ・岡山県

2025 年第 47 週まで（～11/23）に新たに報告された HIV 感染者は 4 名、エイズ患者は 3 名で、両者を合わせた報告数は 7 名となっています（2024 年第 47 週までの両者を合わせた報告数は 8 名（HIV 感染者 4 名、エイズ患者 4 名））。

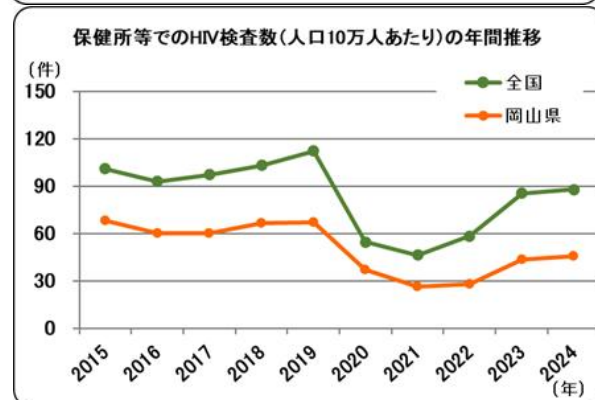


厚生労働省エイズ動向委員会 令和 6(2024)年 エイズ発生動向データに、感染症発生動向調査から 2025 年(11 月 23 日まで)のデータを追加して作成

## 【岡山県内における HIV 抗体検査・相談件数】

岡山県内の保健所における相談件数は、2022 年から 2 年連続で増加していましたが、2024 年は減少に転じました。全国的にも同様に前年から減少しています。

また、保健所および拠点病院での HIV 検査数（人口 10 万人あたり）については、2024 年は前年からほぼ横ばいで推移しており、新型コロナウイルス感染症流行以前の 2019 年と比較すると低い水準となっています。全国的にも同様に前年からほぼ横ばいで推移しています。なお、岡山県内の保健所等での HIV 検査数（人口 10 万人あたり）は、全国と比較して少ない状態が続いています。



2025 年 12 月 1 日 世界エイズデー

『U=U 検出されない＝性感染しない』（「世界エイズデー」キャンペーンテーマ）



レッドリボン  
エイズに対する理解と  
支援の象徴

世界エイズデーは、世界レベルでの後天性免疫不全症候群（エイズ AIDS）のまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機関）が 1988 年に制定したもので、毎年 12 月 1 日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

近年では、HIV 治療法の進歩により、HIV 陽性者の早期発見やエイズの発症の防止が可能となっています。また、HIV が検査で検出できない程度に最低 6 か月以上継続的に抑えられている HIV 陽性者は、性行為によって HIV を感染させることがないことも確認されています。このことは、Undetectable（検出限界未満）＝Untransmittable（HIV 感染しない）、略して「U=U」と呼ばれています。しかし、現状はこうした変化の情報は十分に伝わっておらず、未だに「死に至る病である」という認識にとどまる人も少なくありません。そのことが HIV 感染を心配する人たちを検査や治療から遠ざけ、また、差別や偏見を招く要因の一つになっているとも言われています。

今年度の「世界エイズデー」キャンペーンテーマは、この「U=U」という言葉を知ることが契機に、もう一度 HIV／エイズのことを皆で考えてみましょうというメッセージが込められています。

[API-Net エイズ予防情報ネット「世界エイズデー」特設ページ](#)

**HIV 感染者** …… 感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、無症候性キャリアあるいはその他として報告されたもの。

**エイズ患者** …… 受診時、すでにエイズを発症しており、感染症法の規定に基づく後天性免疫不全症候群発生届により、「AIDS」患者として報告されたもの（※**いきなりエイズ**）。  
（既に HIV 感染者と報告されている症例がエイズを発症するなど病状に変化を生じた場合は除く。）

※ **「いきなりエイズ」** とは、エイズ発症によって初めて HIV に感染したことが判明することです。  
HIV 感染の治療の遅れとともに予期せぬ感染の広がりにつながる可能性もあり、対策が必要です。

12 月 1 日の世界エイズデーにあわせて、  
岡山県内の保健所・支所では、日時を拡大して検査を実施します。

[保健所検査を受けるときは？（岡山県疾病感染症対策課）](#)

[世界エイズデー関連 夜間・特例及び休日検査一覧](#)

※必ず**事前に電話予約**をしてください。

岡山県では、平成 25 年度から全県を挙げて、**HIV 感染防止と「いきなりエイズ」防止**のため、「受けやすい検査」「戦略的な普及啓発」「関係者の連携強化」を 3 つの柱とした「おかやまエイズ感染防止作戦」を実施しています。

[知って防ごう！性感染症と HIV（岡山県疾病感染症対策課）](#)

○岡山県保健所・支所、岡山市保健所、倉敷市保健所のエイズ検査（一部、梅毒なども含む）・性感染症相談は、以下のリンクから詳細をご覧ください。

[岡山県保健所・支所](#)

[岡山市保健所](#)

[倉敷市保健所](#)

○エイズ治療拠点病院の HIV 検査（**要予約**、電話相談は行っていません）は、[こちらから](#)

## HIV 検査について

HIV に感染しているかどうかは、HIV 検査を受けないと分かりません。HIV に感染してからエイズ発症まで数年程度と、ある一定期間自覚症状がない時期が続くため、気づかないうちに大切な人にうつしてしまう可能性があります。

HIV は、たとえ感染しても早期に発見すれば服薬を続けることで、エイズの発症を防ぐことができます。

早期発見・早期治療がエイズ発症防止や HIV 感染拡大防止にも結びつくことから、保健所（無料・匿名）や拠点病院（一律 1,000 円・即日検査）などでの HIV 検査を積極的に利用することが望まれます。

もし HIV 検査で感染していることが分かった場合でも、県内 10 か所の拠点病院で専門的に治療を受けることができます。

### 岡山県内での HIV 検査

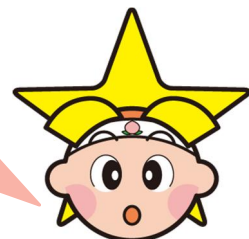
	検査法	結果時期	正しい検査結果が得られる時期	料金	予約	備考
保健所	血液検査	【通常検査の場合】 ・約1週間後  【即日検査の場合】 ・陰性⇒約1時間後（簡易迅速検査による） ・陽性⇒1週間後（確認のため）  * HIV即日検査を実施している保健所 （岡山市保健所・倉敷市保健所・備前保健所・美作保健所）	感染が疑われる機会があつてから3か月経過後	無料	必須	匿名 梅毒などの性感染症検査も同時に受けられる  梅毒即日検査を実施している保健所 （岡山市保健所・倉敷市保健所）
拠点病院		即日 （1～2時間後）	感染が疑われる機会があつてから8週間以降	1,000 円	必須	匿名では受けられない

重要！

**HIV など、性感染症の検査目的での献血は、絶対に行わないでください！**

HIV やその他の性感染症に感染しても、検査ではわからない期間があります。また、献血された血液を検査した結果 HIV が陽性となっても、日本赤十字社は検査結果の通知は行いません。  
HIV など、性感染症の検査は、保健所または医療機関で受けてください。

全国・岡山県ともに梅毒患者の報告数が多くなっています。  
性感染症に「感染したかも…」と思ったら  
早めに検査を受けましょう。



© 岡山県「ももっち」



## 今週の注目感染症②

### ★伝染性紅斑

#### ●感染経路および症状

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルス B19 による感染症で、小児を中心にみられる流行性発しん性疾患です。両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれます。感染経路は患者の咳などによる飛沫感染や接触感染です。

約 10～20 日の潜伏期間の後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がります。多くの場合、頬に発しんが出現する 7～10 日くらい前に、微熱や風邪の症状などが見られ、この時期にウイルスの排出が最も多くなりますが、発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。その後これらの発しんは一週間程度で消失しますが、中には長引いたり、発しんが再び出現することがあります。

成人では関節痛を伴う関節炎や頭痛などの症状が見られることもあります。ほとんどは合併症を起こすことなく自然治癒します。

[伝染性紅斑（厚生労働省）](#)

[伝染性紅斑（国立健康危機管理研究機構）](#)

#### ●治療・予防方法

伝染性紅斑には特別な治療法はなく、対症療法が行われます。

ヒトパルボウイルス B19 は、紅斑が出ている時期にはほとんど排出されていません。そのため、予防法は初期症状である風邪症状がある方との接触を避ける、うがいや手洗い、手指の消毒を行うなどです。風邪症状のある人は『咳エチケット』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。

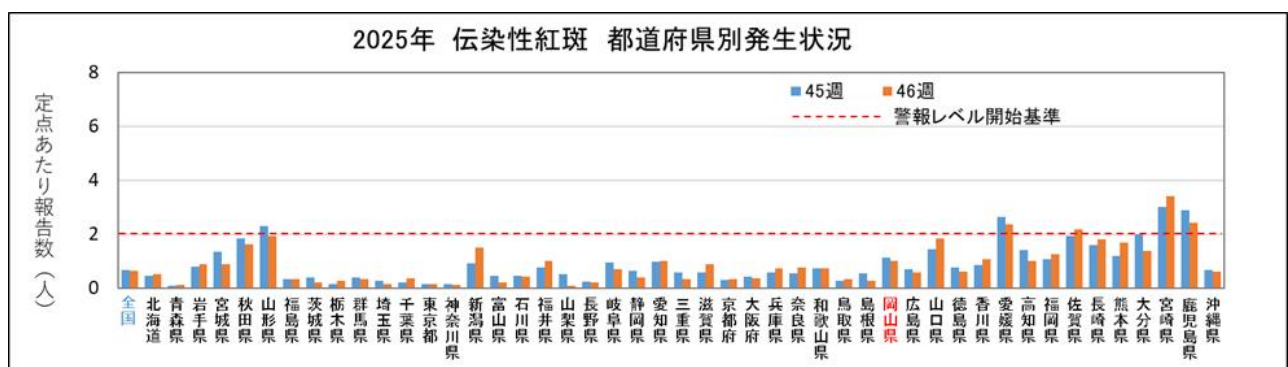
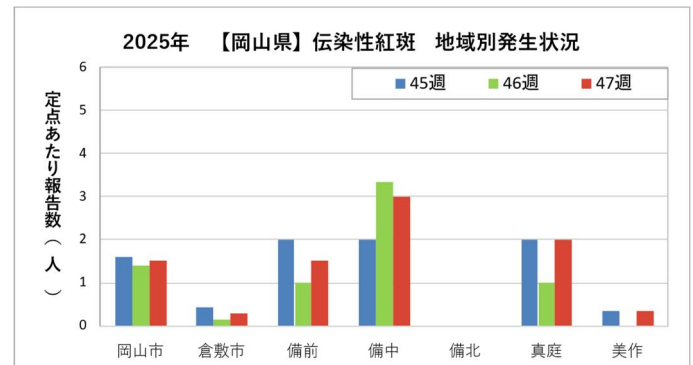
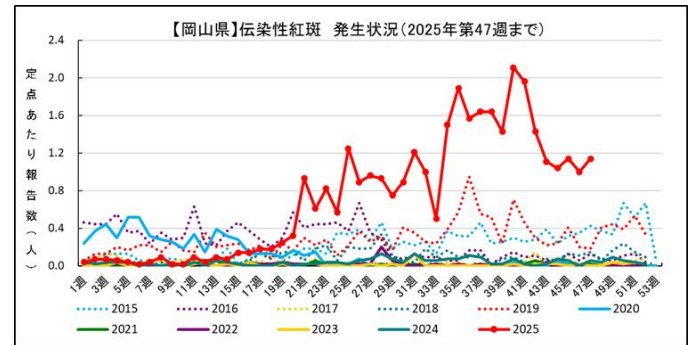
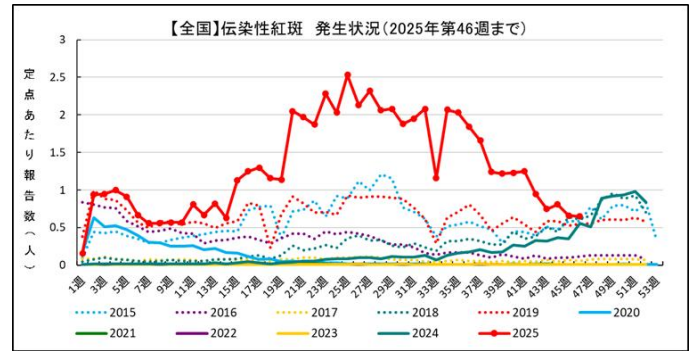
#### ●妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまでヒトパルボウイルス B19 に感染したことの無い女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出る等、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は医療機関に相談しましょう。また、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、症状がない場合も妊婦検診の際に医師に伝えてください。

#### ●発生状況

全国の第 46 週の定点あたり報告数は第 45 週とほぼ同数でした（0.66→0.65 人）。都道府県別では、宮崎県（3.40 人）、鹿児島県（2.42 人）、愛媛県（2.37 人）の順に定点あたり報告数が多く、4 県で警報レベルの 2.00 人を超えています。

岡山県の第 47 週の定点あたり報告数は前週から増加しました（1.00→1.14 人）。地域別では、備中地域（3.00 人）、真庭地域（2.00 人）、岡山市（1.50 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。





## ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)※、つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。

体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [日本紅斑熱](#) (国立健康危機管理研究機構)
- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A](#) (厚生労働省)
- ⇒ [つつが虫病](#) (国立健康危機管理研究機構)
- ⇒ [マダニ対策、今できること](#) (国立健康危機管理研究機構)



吸血後の  
フタゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター  
ウイルス科 撮影画像

## ◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

**岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令中です！**

### ➤ 「清潔」(菌をつけない)

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

### ➤ 「迅速・冷却」(菌を増やさない)

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。  
(生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。)

### ➤ 「加熱」(菌をやっつける)

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう(腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します)。



0157の電子顕微鏡画像  
(国立健康危機管理研究機構)

[食中毒予防の3原則\(岡山県生活衛生課\)](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント\(厚生労働省\)](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント\(厚生労働省作成チラシ\)](#)

## インフルエンザ週報 2025 年 第 47 週 (11 月 17 日 ~ 11 月 23 日)

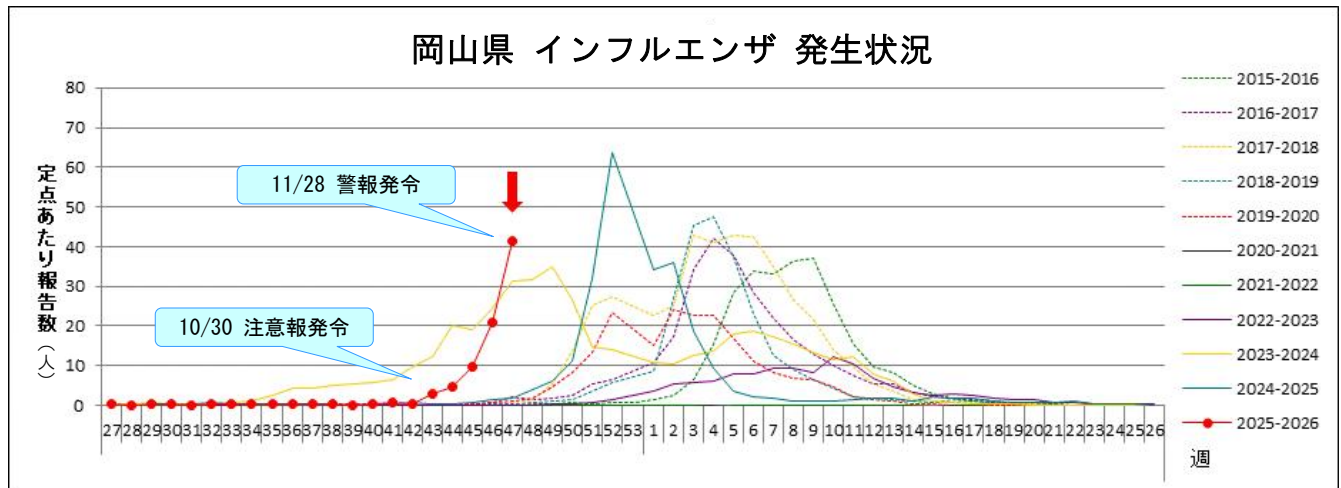
岡山県は『インフルエンザ警報』を発令しました(11 月 28 日)

## 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 2,061 名（定点あたり 41.22 人）の報告がありました（50 定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 139 施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者 15 名の報告がありました。

## 【第 47 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 94 施設でありました（11 月 25 日～26 日）。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

※ 2025 年第 15 週以降定点がインフルエンザ/COVID-19 定点（84 医療機関）から ARI 定点（50 医療機関）になりました。

インフルエンザは、県全体で 2,061 名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり 21.00 → 41.22 人）。岡山県は 10 月 30 日に「インフルエンザ注意報」を発令し、注意喚起を図ってきたところですが、県全体の定点あたり報告数が警報発令基準の 30.00 人を上回り、流行時期等から今後も患者が増加する可能性があるため、11 月 28 日に『インフルエンザ警報』を発令し、さらなる注意喚起を図ることとしました。

県内の発生状況に注意するとともに、基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、場面に応じてのマスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。また、予防接種を予定されている方は、早めに済ませましょう。

## ◆インフルエンザが流行中です。感染に注意しましょう◆

## 【感染防止策の徹底】

- ・場面に応じたマスクの着用、手洗い、手指消毒の実施
- ・室内の適度な湿度の設定、定期的な空気の入換え
- ・高齢者や基礎疾患のある方などは、人混みを避ける
- ・十分な休養、バランスのとれた食事

## 【予防接種を検討中の方は早めの接種を】

特に高齢者や基礎疾患がある方など重症化リスクが高い方は、インフルエンザワクチンの接種を検討しましょう

（ワクチン接種により、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があります）

## 【発熱等の症状が出た時は】

- ・早めに医療機関を受診する
- ・周りの方へうつさないように「咳エチケット」を！
- ・水分を十分にとり、安静にして休養をとる

⇒ 詳細は岡山県ホームページ『インフルエンザ対策について』をご覧ください。

# 1. 地域別発生状況

地域名	発生状況（人）		推移	地域名	発生状況（人）		推移
岡山県全体	患者数	2,061		備 中	患者数	210	
	定点あたり	41.22			定点あたり	42.00	
岡山市	患者数	976		備 北	患者数	136	
	定点あたり	54.22			定点あたり	34.00	
倉敷市	患者数	525		真 庭	患者数	85	
	定点あたり	43.75			定点あたり	42.50	
備 前	患者数	77		美 作	患者数	52	
	定点あたり	19.25			定点あたり	10.40	

【記号の説明】前週からの推移 ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：減少 ：大幅な減少  
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

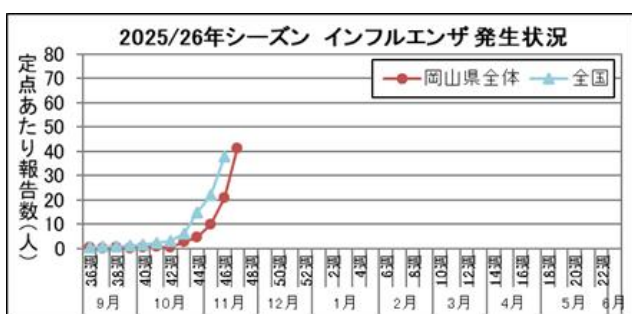
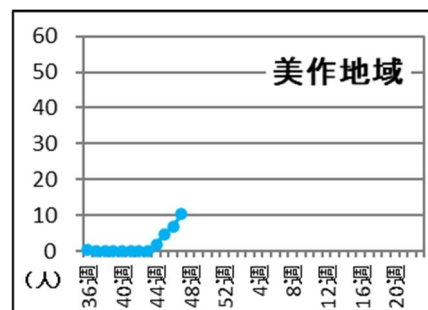
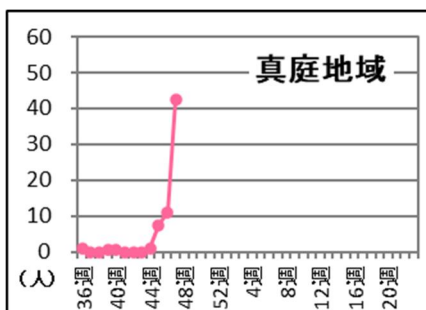
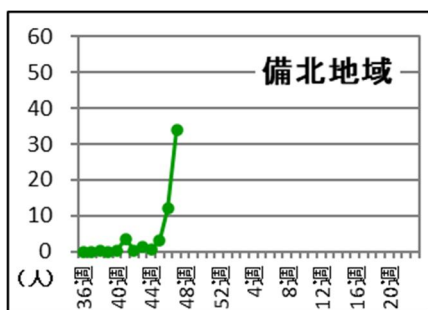
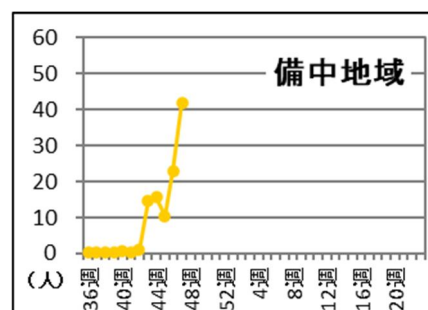
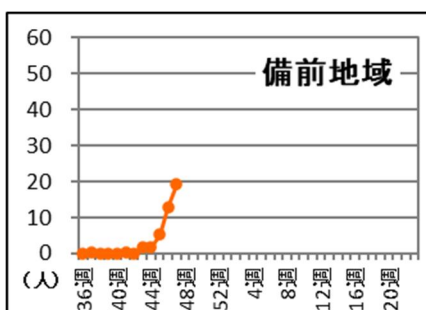
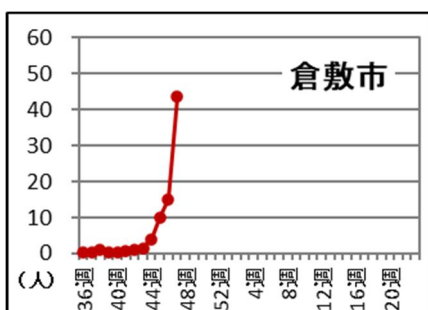
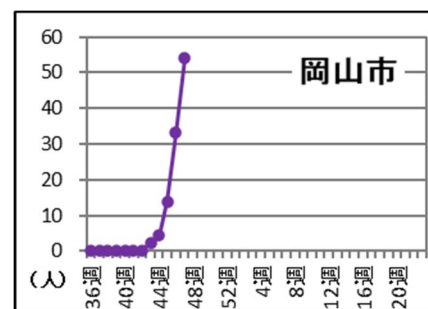
## インフルエンザ感染症マップ



### <インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 未満 10 未満		0

※数字は定点あたり報告数

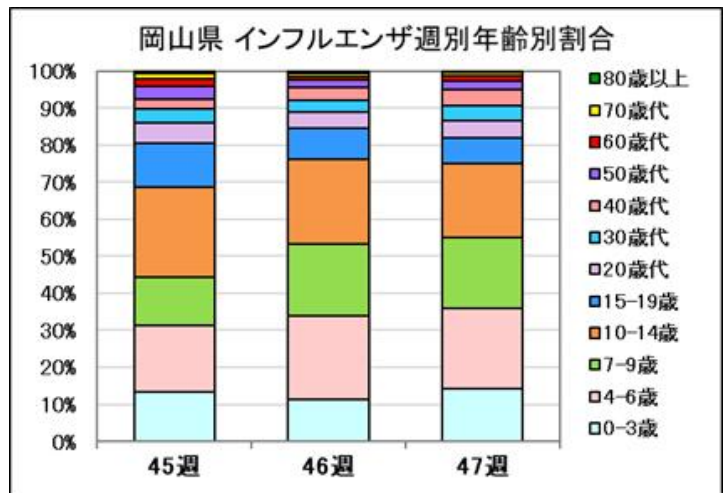
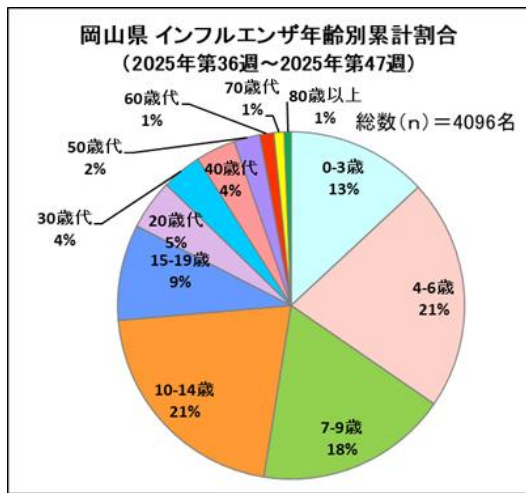


全国集計 2025 年第 46 週（11/17～11/23）速報値によると、全国の定点あたり報告数は 37.73 人となりました。

都道府県別では、宮城県（80.02 人）、埼玉県（70.01 人）、福島県（58.54 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。46 都道府県で前週の報告数から増加しました。

[インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）](#)

## 2. 年齢別発生状況



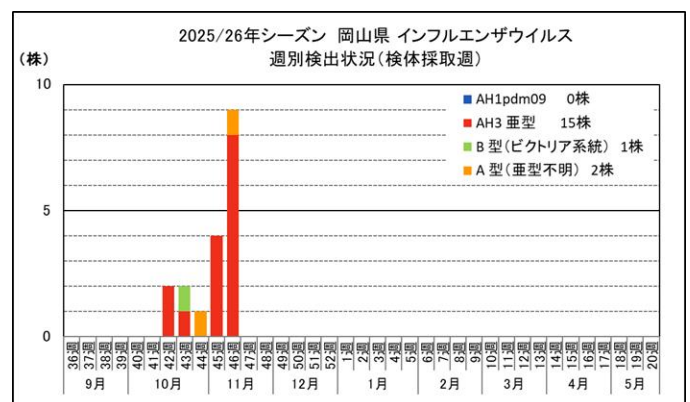
※定点医療機関は、小児科定点（28 医療機関）が内科定点（22 医療機関）に比べて多いため、報告数は小児に偏ります。

## 3. インフルエンザウイルス検出状況

### 【岡山県】

2025 年第 47 週に新たに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは 2 株で、全て A 型亜型不明でした。

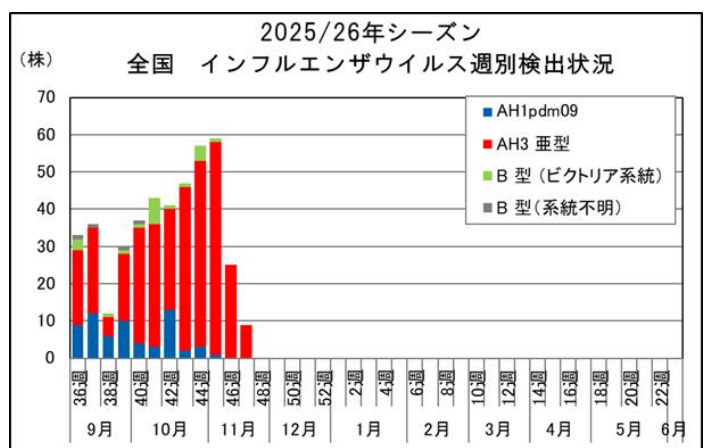
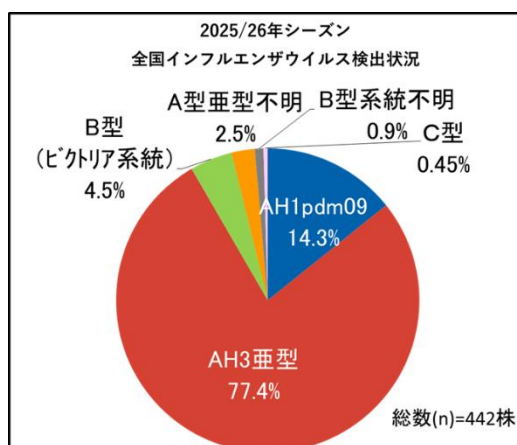
今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは 18 株で、AH3 亜型が 15 株、B 型（ビクトリア系統）が 1 株、A 型亜型不明が 2 株となっています。



### 【全国】

今シーズン、これまでに検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 が 63 株、AH3 亜型が 342 株、B 型（ビクトリア系統）が 20 株、A 型亜型不明が 11 株、B 型系統不明が 4 株、C 型が 2 株となっています（11 月 25 日現在）。

### [インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立健康危機管理研究機構）](#)

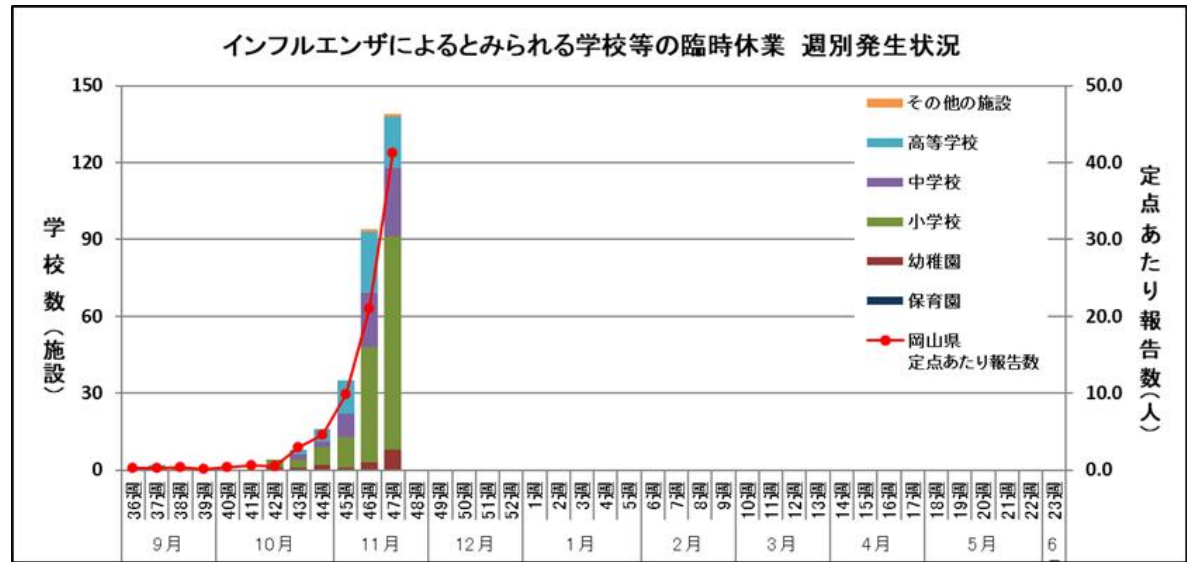


※集計が異なるため一部の型が報告されていません。



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、139 施設でありました。



臨時休業施設数の内訳

	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
第 47 週	0	8	83	27	20	1	139
累計	0	16	154	61	66	2	299

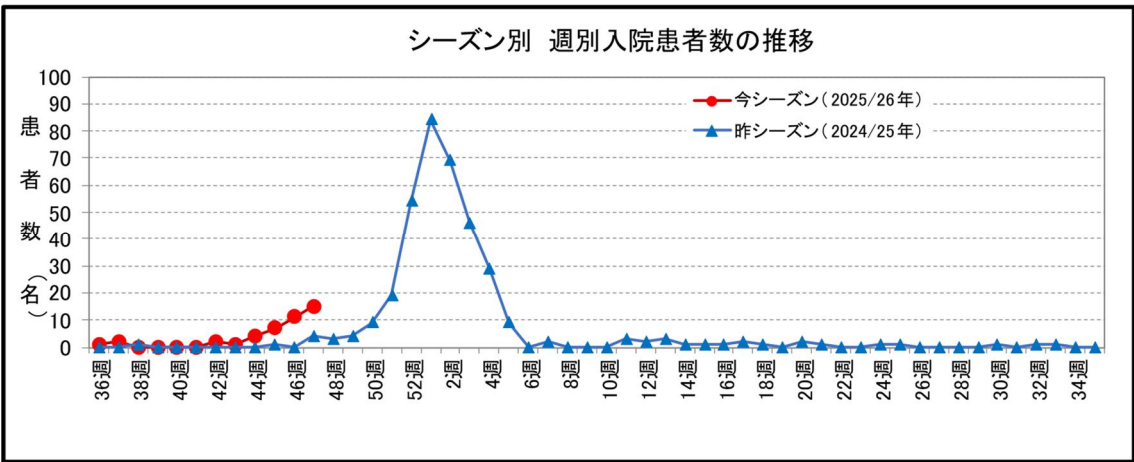
最新の臨時休業の情報については以下のホームページをご覧ください。

→ [（R7 年度シーズン）岡山県内の学校等におけるインフルエンザとみられる臨時休業](#)

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、15 名の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずウトウトしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 47 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計 *
入院患者数	1	3	1	1	1					4	3	1	15
ICU 入室 *													
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *													
頭部 MRI 検査(予定含) *		1	1										2
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず	1	2		1	1					4	3	1	13

\* 重複あり

【2025 年 9 月 1 日（第 36 週）以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計 *
入院患者数	4	12	4	3	2				2	5	6	5	43
ICU 入室 *		1									2		3
人工呼吸器の利用 *													
頭部 CT 検査(予定含) *												1	1
頭部 MRI 検査(予定含) *		1	3	1								1	6
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず	4	10	1	2	2				2	5	4	4	34

\* 重複あり

[令和 7 年度 急性呼吸器感染症（ARI）総合対策に関する Q&A（厚生労働省）](#)

[令和 7 年度 今冬の急性呼吸器感染症（ARI）総合対策（厚生労働省）](#)

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2061	41.22	976	54.22	525	43.75	77	19.25	210	42.00	136	34.00	85	42.50	52	10.40
COVID-19	110	2.20	23	1.28	43	3.58	5	1.25	16	3.20	5	1.25	13	6.50	5	1.00
急性呼吸器感染症	5069	101.38	2099	116.61	1231	102.58	252	63.00	792	158.40	295	73.75	197	98.50	203	40.60
RSウイルス感染症	15	0.54	7	0.70	3	0.43	2	1.00	2	0.67	—	—	—	—	1	0.33
咽頭結膜熱	5	0.18	—	—	2	0.29	2	1.00	—	—	—	—	—	—	1	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	1.54	13	1.30	8	1.14	3	1.50	16	5.33	2	1.00	1	1.00	—	—
感染性胃腸炎	73	2.61	32	3.20	22	3.14	2	1.00	6	2.00	4	2.00	—	—	7	2.33
水痘	8	0.29	4	0.40	—	—	—	—	3	1.00	1	0.50	—	—	—	—
手足口病	3	0.11	2	0.20	1	0.14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	32	1.14	15	1.50	2	0.29	3	1.50	9	3.00	—	—	2	2.00	1	0.33
突発性発しん	11	0.39	3	0.30	4	0.57	—	—	4	1.33	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	2	0.07	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1.00	—	—
流行性耳下腺炎	1	0.04	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	3	0.60	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	7	1.40	—	—	6	6.00	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2061	41.22	976	54.22	525	43.75	77	19.25	210	42.00	136	34.00	85	42.50	52	10.40
咽頭結膜熱	5	0.18	—	—	2	0.29	2	1.00	—	—	—	—	—	—	1	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	1.54	13	1.30	8	1.14	3	1.50	16	5.33	2	1.00	1	1.00	—	—
感染性胃腸炎	73	2.61	32	3.20	22	3.14	2	1.00	6	2.00	4	2.00	—	—	7	2.33
水痘	8	0.29	4	0.40	—	—	—	—	3	1.00	1	0.50	—	—	—	—
手足口病	3	0.11	2	0.20	1	0.14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	32	1.14	15	1.50	2	0.29	3	1.50	9	3.00	—	—	2	2.00	1	0.33
ヘルパンギーナ	2	0.07	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1.00	—	—
流行性耳下腺炎	1	0.04	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	3	0.60	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3  
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。



感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2025年 第47週 2025/11/17～2025/11/23 )

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	2061	12	23	73	80	102	148	141	163	127	154	111	410	148	91	86	89	45	31	18	9
COVID-19	110	2	1	3	-	-	-	2	1	-	1	1	4	3	10	12	17	10	11	16	16

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
急性呼吸器感染症	5069	204	1635	1356	746	231	167	182	166	122	101	82	77

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	15	2	4	4	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	5	-	1	-	1	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	-	-	1	2	6	4	7	8	7	2	2	4	-	-
感染性胃腸炎	73	1	8	14	7	6	4	2	4	4	3	4	10	1	5
水痘	8	-	-	-	1	-	-	-	-	1	5	1	-	-	-
手足口病	3	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	32	-	-	1	1	3	4	3	6	6	2	1	5	-	-
突発性発しん	11	-	3	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
流行性耳下腺炎	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	7	-	2	2	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

( - : 0 )

保健所別

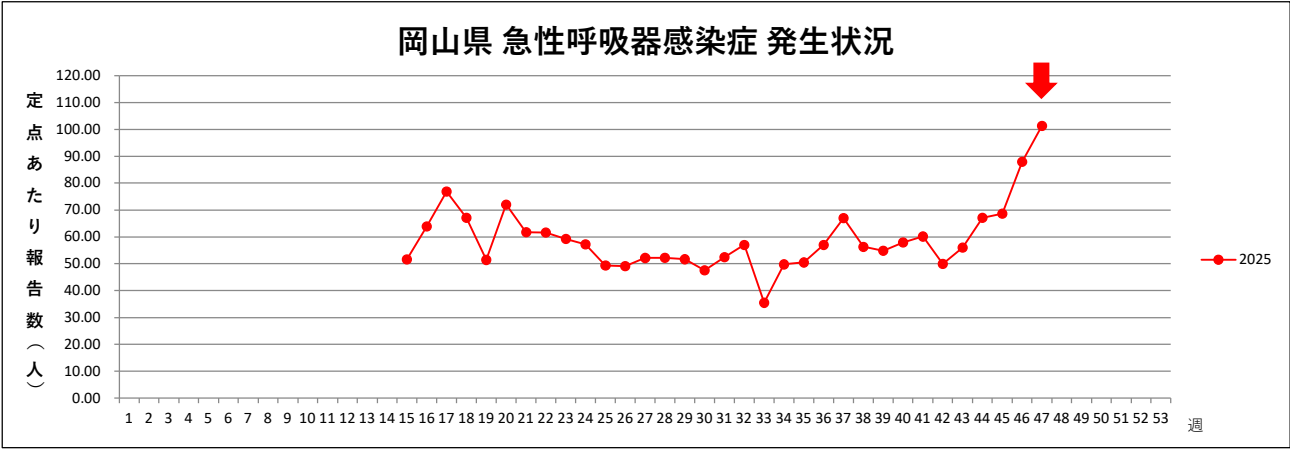
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
急性呼吸器感染症 (ARI)	5,069	101.38	2,099	116.61	1,231	102.58	252	63.00	792	158.40	295	73.75	197	98.50	203	40.60

( - : 0 or 0.00 )

年齢別

疾病名	合計	-12ヶ月	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
急性呼吸器感染症 (ARI)	5,069	204	1,635	1,356	746	231	167	182	166	122	101	82	77

( - : 0 )



## 全数把握 感染症患者発生状況

2025 年 47 週

分類	疾病名	2025		2024	疾病名	2025		2024	疾病名	2025		2024
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-								
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	5	204	245	ジフテリア	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-								
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	-	76	63
	腸チフス	-	-	2	パラチフス	-	-	-				
四類	E型肝炎	-	4	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	4
	エキノкокクス症	-	-	-	エムボックス	-	-	-	黄熱	-	-	-
	オウム病	-	-	-	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-
	キャサヌル森林病	-	-	-	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-
	コクシジオイデス症	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	8	1
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	-
	デング熱	-	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	19	21	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	55	42
五類	レプトスピラ症	-	1	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-				
	アメーバ赤痢	1	7	10	ウイルス性肝炎	-	1	5	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	20	36
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	1	3	急性脳炎	-	12	16	クリプトスポリジウム症	-	-	-
	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	17	30	後天性免疫不全症候群	-	7	8
	ジアルジア症	-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	9	13	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	-	49	35	水痘(入院例に限る。)	-	6	11	先天性風しん症候群	-	-	-
	梅毒	2	231	355	播種性クリプトкокクス症	-	2	5	破傷風	-	-	-
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	百日咳	13	2,094	18
風しん	-	-	-	麻しん	-	3	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	

